

7 「生麦事件」

吉村昭の「生麦事件」を読み終えた。文庫本で上下2巻。

「桜田門外ノ変」は小説の後半それも終わりに近いところで事件、つまり井伊大老が殺害される。しかしこの「生麦事件」の方は、最初に事件が語られる。

事件の後、幕府、薩摩と英国の駆け引きが延々と行われる。

その頃としてはあまり例のない国際問題であるから、事件の影響は非常に大きい。特に幕府にとっては、百戦錬磨のイギリスを相手取っての争議であり、それは厳しい闘いであったことだろう。異国との交渉に不慣れな幕府は主導権をとることができず、結局統制力のなさを露呈することになった。

事件の主役である薩摩藩にとっては、結局英国との戦争に繋がった事件であった。誰もが英国の圧勝を疑わなかった薩英戦争だったが、薩摩藩の善戦でほぼ引き分けといってもよい結果となった。この戦争により薩摩藩は最先端兵器の威力を知り、多くのことを学ぶことができた。犠牲は大きかったが反面得るものも多かったといえる。最終的に薩摩藩は英国と仲直りし条約を締結、むしろ友好的な関係を築くことになる。薩摩藩はしたたかさを兼ね備え自信に満ち溢れていた。

薩英戦争とほとんど時期を同じくして、英米仏蘭連合艦隊と長州藩との間で下関海峡での戦いも起った。この二つの戦争が幕府崩壊、明治維新の上できわめて重要な意義を持つこととなった。

私にとってこの事件は、英国に対し戦争にしても交渉にしても、粘り強く渡り合った、薩摩藩の優秀さと独創性を認識させるに十分なものであった。中心となって薩摩藩を動かした主要人物達は、その後明治政府の一員として近代日本を導いていくことになる。(2011.01.08)